

## 特別講演 2

### 「一般医に必要なじんましの知識」

島根大学医学部 皮膚科学教授

森田 栄伸 先生

蕁麻疹は日常診療においてよく見かける皮膚疾患である。その病態は、皮膚の肥満細胞が種々の要因により脱顆粒して生じる皮膚の一過性の浮腫である。その臨床症状は多彩で、日本皮膚科学会の診療ガイドラインに掲載された病型は 16 病型ある。実際の診療に際しては、誘因なく生じる特発性、誘因が見いだされる誘発性、血管浮腫、特殊型と区分して理解するとよい。その治療は、特発性蕁麻疹に対しては抗ヒスタミン薬を第一選択とする薬物療法が、また誘発性の蕁麻疹に対しては誘因の確認と除去が基本となる。本講演では、蕁麻疹の実際の診療における薬物療法の基本と注意点、殊に抗ヒスタミン薬の特徴と使い方、蕁麻疹の誘因検索における注意点やコツ、血管性浮腫の注意点を紹介する。